

# 常磐

TOKIWA

vol. 11

Aug. 2008



GORO

 TOKIWA

## 表紙説明

### 智学館中等教育学校校舎

2008年4月に開校した6年間の中高一貫教育校である「智学館中等教育学校」。校舎は、「木立の中の分節された校舎群」と「木造2階建て」のコンセプトから造られ、さらに「片側廊下型教室」と「囲み型配置」という特徴が加わり、万遍なく自然光が行き渡る内部空間の創出を実現し、温かくやわらかな雰囲気である。校舎に囲まれた一辺30mの四角な中庭は、生徒たちが集い語らう場として、床仕上げは板張りを主にするなど、温もりと安らぎを感じることができる空間を作り出している。



イラストレーター／佐々木悟郎

常磐 TOKIWA  
Aug. 2008  
vol.11

発行日 2008年8月  
発行 学校法人常磐大学  
編集 常磐大学 企画広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1  
Tel.029-232-2511 (代)  
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

## CONTENTS

### 1 特集 ついに開校! 智学館中等教育学校

3 私たちの学びをお見せします

5 Welcome to CHIGAKUKAN English!

7 学びの環境

9 智学館生に贈る言葉

### 13 TOKIWA NEWS

トキワから旬な話題をお届けします

### 16 キャンパスレポート

学生生活の中から寄せられた声を紹介

### 17 Close Up TOKIWA 部活動紹介

常磐大学高等学校男子バスケットボール部を紹介

  
ANNIVERSARY  
学校法人常磐大学は2009年に  
開学100周年を迎えます

# ついに開校!

# 智学館中等教育学校

新しい学校、新しい学び。  
 今年4月、智学館中等教育学校がいよいよ始動しました。  
 これまでも本誌でその一部をご紹介してきた、  
 設立の理念や独自の教育システムが実践されています。  
 今回は、始まったばかりの智学館を総力特集です。



## 人間の尊厳を大切にし 世界的視野で行動できる 人材を育てる

水戸の新緑がまぶしい6月初旬。春の入学式から2ヶ月が経った智学館には、一期生の活気があふれていました。どのクラスでも、先生の問いかけに恥ずかしがらず手を上げて大きな声で返事をし、語られることには真剣なまなざしで聞き入る生徒たちの姿が見られます。山田隆士校長が「生徒の、知ることへの意識や関心が非常に高い」と話す通り、それぞれが本気で授業に取り組んでいることが伝わってきました。

智学館は、中学校から高校までの6年間を一貫した教育体制の中で行う中等教育学校です。学習面では自由度の高いカリキュラム編成を活かし、通常より高次の学習内容を勉強することが可能となります。また、理科の実験やフィールドワークなど、単に教科書だけではなく自分で体験して考える探検型の学習方法が充実。さらに生活面を見ると、将来的には年の離れた生徒と関わり合うので、先輩はリーダーシップを取ってイベントなどで自発的に活動し、後輩は先輩に大いに学ぶという、お互いの連携が期待できます。6年間の年月を共に過ごす友人関係は一生のものになることでしょう。



15:55

清掃



一日の締めくくりに、学校をきれいに掃除します。



16:20

部活・下校



◀硬式テニス部、サッカー部、英語部など10ある部活動は希望参加制。また明日も一緒に勉強しようね。



## イベント TOPICS

智学館には一年を通して様々な行事があります。早速この春行われたイベントのもようをお伝えします。

### 第1回入学式

4月5日、希望を胸にした92人の新1年生が門出を迎えました。



### 開校記念式典

新しい中等教育学校の始まりをお祝いして、クラスごとに、記念の樹を植えました。

### 智学館流合宿

2泊3日の初めての合宿。上高津貝塚では、火おこしを体験しました。



11:55

ランチタイム

広々とした食堂で、先生と一緒にいただきます。選べる給食、今日はポークソテーかエビフライです。



12:50

授業

4限 12:50~13:45  
5限 13:55~14:50  
6限 15:00~15:55



### 技術

◀立体の製図を勉強中。少人数制なので先生が一人ひとりにアドバイスできます。

### 家庭科

▶来週はムニエルに挑戦。うまく作れるようにしっかり予習。



### 理科

▼顕微鏡を使つての観察の授業。実験を多用し、発見することの喜びを見出す「探検型学習」を実践しています。



8:50

授業

1限 8:50~ 9:45  
2限 9:55~10:50  
3限 11:00~11:55



さあ、授業が始まります。智学館では1時限55分授業で、授業第一主義。丁寧に教えてもらえます。



### 数学

◀プロジェクターを使ったフラッシュテストで前回のおさらいです。「できたー」「今の、分からなかったー」と生徒から思わず声が漏れます。

### 英語

▶日本人とネイティブの先生の二人で行われます。英語教育の理念は、もちろん授業にも活かされています。



### 休み時間

◀一人ひとりにたっぷり入るロッカーがあるから、授業の用意もばっちり。



### 体育

▶この日は屋外のコートでテニス。智学館では、世界的なスポーツである硬式テニスとサッカーが特に推奨され、部活動でも楽しめます。



1期生入学!

# 私たちの学びをお見せします



8:30

登校



通学バスが到着しました。出迎える先生に「おはようございます!」と挨拶しながら、智学館の正門をくぐっていきます。

8:30~8:40

智学館タイム



登校すると、毎日10分間的小テストなどを行います。ここで気持ちを落ち着かせ、授業への切り替えをします。

智学館では  
どんな学校生活が  
送られているのでしょうか。  
新1年生の1日に  
密着しました。

友達も  
いっぱいできて、  
毎日、充実!



智学館英語教育メソッド

“Learning by Doing”の実践

教育目標

多文化を生きる地球市民として活躍する人材の育成。  
英語力における「たくましさ」と「しなやかさ」を養成。

my Englishの確立

- 気づく Awareness-Raising
- 理解する Comprehension
- 関連づける Networking
- 自動化する Automatization
- 表現する Production

指導法

- Personalization**  
(生徒にとってリアリティのある場面設定)
- Authenticity & Meaningfulness**  
(本物の英語を素材とした活動)
- Voice-Training & Orthography**  
(音と文字の徹底指導)
- Core-based Learning**  
(コア・イメージを使った学習)
- Cognitive Pedagogical Grammar**  
(表現のための英文法を習得)
- Project in English**  
(リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションを通じた本格的なプロジェクトを実施)

田中先生からのメッセージ

智学館英語プログラムを考案しました

日本の英語教育には、小学校から大学までを貫く健全なカリキュラム・フレームワークがありません。そこで智学館では、発達の観点を取り入れた「英語カリキュラム・フレームワーク」を導入しました。発達する段階に応じた英語コミュニケーション能力を育みます。



田中茂範

学校法人常盤大学参与、慶應義塾大学教授。教育学博士。応用言語学的な視点から、意味論、英語教育論などを展開中。NHK「新感覚☆キーワードで英会話」の講師。著書に「コトバの意味づけ論」など。智学館では、英語教育プログラムの開発・運営に参画されている。

6年間どんな流れで学ぶのでしょうか

智学館では、生徒にとって「分かる・使える」英語を提供します。それができれば、日本の大学のみならず、世界中の大学を視野に入れた進路選択も可能になるはず。そのための、オールラウンドな英語力を身につけるカリキュラムが編成されています。

【英語教育 6年間の流れ】



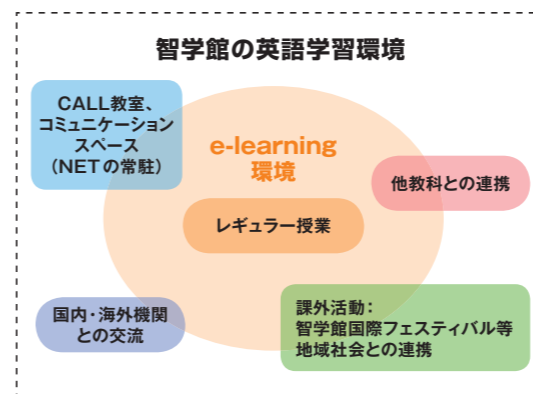
どうして英語を学ぶのでしょうか

英語は世界の「国際語」。英語を使うことができれば、経験する世界は広がります。さらに、この地球の多文化を生きる上では、異なる背景を持つ人たちが互いを認め合い、その違いを楽しみ、尊重し合うことが大切です。生徒にはそんなグローバルマインドを身につけ、多文化の中でたくましく、しなやかにコミュニケーションのできる力を育ててもらいたいと考えます。

どんな環境で英語を学ぶのでしょうか

智学館の英語教育は、“Learning by Doing”つまり、英語を使ってコミュニケーションを取ることが基本なので、生徒は楽しく、そして本当に使える英語を身につけ、効果的にMy English (自分が使う言語としての英語)を確立できます。授業時間は公立校と比べて1.9倍。しかも少人数制により、一人ひとりを細やかにサポートします。

さらに授業だけでなく、教室名や掲示は英語で表記し、ネイティブの教員 (NET) が常駐しているなど、日常的に英語に触れることを目指しています。特にNETは、授業を日本人の先生とのティームティーチングで行うほか、休み時間にコミュニケーションスペースで話すなど、学校生活をともにします。また、好きな時間に学べるよう、独自にe-learning教材を開発。将来的には英語の授業はもとより、さらに教科間で連携して、体育、理科、社会などで、英語を用いて学ぶことも想定しています。



Welcome to CHIGAKKAN English!



**英語はできて当たり前になる!**

英語は智学館において最もこだわっている教育の一つ。田中茂範理論により、これまでの英語教育の問題点を克服する画期的なメソッドが作られました。英語を身につけるべき理由や、オリジナルの学習方法などをご紹介します。



# 6年間を過ごす 学びの環境

13歳から18歳までの大切な時間を過ごす  
学び舎には、随所に生徒の豊かな  
成長のための工夫が凝らされています。  
柔らかな温もりのある木造で、  
上下の移動が少ない2階建て。  
開放感と明るさに溢れ、  
のびのび学べる空間です。



## 1 Front Gate [正門]

落ち着いたある智学館の正門が生徒を迎えます。セキュリティにも配慮しています。

## 2 Cafeteria [食堂兼特別活動室]

天井が高く、ガラスと木材を多用した明るく開放的な空間の中で給食を食べます。

## 3 Chigakukan Square Garden [校舎中庭]

陽のあたる中庭は、昼休み、放課後の憩いの場。みんなで植えた樹も元気に育っています。

## 4 Class Room [普通教室]

木目に安らぎを感じる室内。高さが変わる黒板など、デザインと使いやすさが追求されています。

## 5 Stained Glass [ステンドグラス]

壁画家 松井エイコ氏による作品「自ら拓く時」。昇降口の吹き抜けを、未来に広がるように彩っています。

## 6 Teacher's characters [教室名札]

教室の前には、それぞれのクラス担任の先生の似顔絵が。これなら、すぐに先生と親しくなれそうです。

## 7 CALL Workshop [CALL教室]

生徒用パソコン32台、AV機器、大型スクリーンを完備し、語学学習に活用されます。

## 8 Communication Space [コミュニケーションスペース]

日常的な英語環境をここでも実現しています。休み時間にネイティブの先生と親しむこともできます。

## 9 Murals [廊下壁画]

壁面を大きく利用したディスプレイで、世界地図や元素記号、日本固有色などが自然に覚えられます。

## 10 Library [図書室]

昼休みや放課後など、本の検索や自習スペースを自由に利用することができます。

## 11 West Gymnasium [第1体育館]

講堂としても利用できる大きな屋内競技場です。この日は、クラスで大縄跳びにチャレンジ。

## 12 Counseling Room [カウンセリング室]

勉強、進学、友人関係、家族関係などの悩みを抱えても、気軽に相談できます。

## 13 Observatory [天体観測室]

中庭の正面にそびえる天体観測室。月や土星の観察を通して、本物に触れる感動を味わうことができます。



学びやすい  
工夫がいっぱい！



# 智学館生に贈る言葉

これから始まる6年間には、どんな出来事が待ち受けているのでしょうか。希望を胸に歩みだした一期生。生徒の皆さんを見守る方々から、期待を込めた、励ましのメッセージが届きました。



## Schoolの本当の意味を考える



智学館中等教育学校名誉校長・智学館運営審議会会長

### 小田卓爾

学校法人常磐大学評議員。慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。オックスフォード大学へ留学。元慶應義塾中等部長、元慶應義塾ニューヨーク学院長。イギリスの初等・中等教育に造詣が深い。

に、これから将来を担う子どもたちにとっても必要な心です。このような堅実で先進的な精神を本校の教育目標に掲げたことを、私たちは大きな誇りにしたいと思えます。私立学校と公立学校との根本的な違いは、設立者の理念があるかどうかです。ここに公立学校では見ることのできない、そして私立学校でも比類を見ない立派な理念を持った古くして新しい学校が設立されました。智学館では、世界に羽ばたく強くてしなやかな翼を持った子どもたちを育てようと、教職員一同、大いに張り切っています。

生徒の皆さん、皆さんは智学館の第1年目の生徒です。先輩のいない6年間を過ごすのは妙な感じがするかも知れませんが、こんな体験はめったにできるものではありません。皆さんが学校の歴史を作るトランプランナーなのです。そんな皆さんに智学館の生徒として過ぐすにあたり、すつと心に留めていただきたいことをお話ししたいと思います。

皆さんはもう英語の時間で習ったと思いますが、英語で「学校」をなんと言いますか？そう、schoo、school、です。学校と聞きますと勉強のことが重くのしかかってくると思いますが、schoolという語は、確かに授業という意味もありますし、私が若いころ勉強していたイギリスの大学では試験という意味にもなります。そうか、schoolというのは授業や試験

つまり勉強のことかと思うと、やはり重い感じがしますね。ところが、実はずっと昔、ギリシャの時代にさかのぼると、schoolと訳「シッラー」という意味でした。自由や娯楽、のびのびと楽しく語り合うことを school、いっていました。ですから、もともと school というのは楽しく自由に過ごすことです。皆さん、この school のもとの意味を、ときどき思い出してください。そして、この智学館の6年間、どうぞ楽しむのびのびと勉強して過ごしていただきたいと思います。もちろん、授業や試験を受けたり、数年後には受験勉強が控えているかも知れませんが、確かに、勉強はつらいと思うときがあるかも知れません。でも、もともと勉強は楽しくのびのびとするものなのです。

これから、いろいろ学びながら、皆さんにはそれぞれ個性が育つてきます。まず、一人ひとり自分を大事にしてください。自分の考えを大事にすることで、別な考えも同じように大事なのだと思えるようになります。一人ひとりが自分を大事にすることで、ほかの人も思いやることができるのです。

智学館中等教育学校では、school の本来の意味を考え、のびのびと楽しく勉強することができるように色々と工夫をこらしています。この木の香りが漂う校舎で、先生と一緒に school のもとの意味を忘れず、のびのびと楽しく勉強していただきたいと思います。

## 学

校法人常磐大学開学100周年の記念事業の一環として、智学館中等教育学校が設立されました。ことに心より敬意を表します。100年の歴史をもつ学校法人常磐大学の中で、いま産声を上げたばかりの智学館中等教育学校に、私は昔イギリスのあちこちで見聞きした「古くして新し」old and new、という、英語を思い出しています。この old and new という言葉は、古いものと新しいものが無造作に並んでいるわけではなく、古いもの old と新しいもの new との間には深い関係があるこ

## 学

とを意味しています。換言しますと、「より優れた歴史こそが、確かで新しいものを生み出すことができる」と言えるでしょう。智学館の設立には、この old and new という言葉がびつたりあてはまるように思われます。つまり、本校設立の理念は一日にして完成したのではなく、1世紀もの長く確かな歴史の力が生み出したもの、と語ることができると思います。

智学館の教育目標である3つのマインド「サイエンスマインド・グローバルマインド・ソーシャルマインド」は、過去を見据え将来を眺望したときとを意味しています。換言しますと、「より優れた歴史こそが、確かで新しいものを生み出すことができる」と言えるでしょう。智学館の設立には、この old and new という言葉がびつたりあてはまるように思われます。つまり、本校設立の理念は一日にして完成したのではなく、1世紀もの長く確かな歴史の力が生み出したもの、と語ることができると思います。

## 智

学館中等教育学校第一期生の皆さん、入学おめでとうございます。智学館の開校を喜ぶ一人として、一言お祝いの言葉を述べさせて頂きます。

皆さん承知の方も多いと思いますが、1920年代に活躍した金子みすゞという詩人がいます。世の中の弱い人たちへ温かい心を注いで、たくさん詩を作りしました。一部の「小学校国語教科書」にその詩が載っていますから、皆さんの中には金子みすゞという詩人の事を知っている人も多いかと思えます。その金子みすゞの詩に「わたしと小鳥とすずと」という題の詩があります。

わたしが両手をひろげば、  
お空はうつともへなないが、  
とべる小鳥はわたしのよう、  
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、  
きれいな音はでないけれど、  
あの鳴るすずはわたしのよう、  
たくさんなうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがって、みんないい。

「金子みすゞ」童謡集 わたしと小鳥とすずと  
（文庫版）（角川書店）

このみすゞの詩の最後の二句、「みんなちがって、みんないい」が、私の大のお気に入りの言葉です。

ところで最近、私は若い人たちと一緒に、物を考えるイメージトレーニングと、物を創り出すクリエイティブトレーニングというワークショップを時々開いて、色々な作品作りをしているのですが、そのひとつに「のびるのびる」という題の作品作りがあります。細長い白い紙を三つに折って、その真ん中に赤い三角形の色紙を貼ります。そしてこの折り目の所で三角形を切つて、「のびるのびる」と広げると、赤い三角形は三つに分かれます。そして白い所がたくさんできたところ、何かにそれぞれにイメージをして、色紙を切つたり貼つたりしながら、一つの作品に仕上げるというワークショップです。ただこれには約束ごとがあります。ひとつは折りたたむ時に、赤い三角形の周りに模様を描いたり、色をつけたりしないこと、ふたつ目は、白い紙の真ん中に貼る三角形の色は必ず赤にすることです。これを示して、学生たちにくくつかのヒントや見本を見せると、何をイメージしよう、何を想像しようとしはらくみんな考えます。やがてみんなが作りだして二時間もすると、作品が出来上がります。この真っ白い紙の真ん中に赤い三角形を置いて、それから何がでせるのか。白い紙を開くと洗濯物を干している様子やウサギとカメラの物語になったりもします。最初はこの白い地に赤い三角形があるだけです。開くと様々な物に変化するのです。私はこの作業を通して、人間の発

想力の豊かさというのを見事だなあとも思っています。またこの作品をみんなで見せあうと、みんなが、誰もが素晴らしい発想力を持っているなあ、と、みんな素晴らしい。つまり、「みんなちがって、みんないい」という事を実感します。

これを皆さんに例えてみますと、この白い紙が智学館の校舎とか敷地、皆さんが生活する場所、真ん中に貼った赤い三角形は、智学館の皆さんを表します。智学館には校舎や校庭があり、基準服やその他のいろいろな決めごとがあります。これは皆さんに共通した条件です。ところがそれを開いた中の白地がこれから皆さんが活躍する智学館の学校生活です。つまり智学館の生活というのは、「のびるのびる」の作品作りが示したように、一人ひとりの発想で自由に愉快にいろいろなことを創り出すことができます。「のびるのびる」の作品の様々な発想の豊かさのよう、皆さんは皆さん自身で智学館の生活を豊かにしてくださいと、お話ししたいと思います。

「のびるのびる」の作品作りのように、皆さん一人ひとりが自由に発想して、素晴らしい学校生活を創り出してほしい。皆さん一人ひとりが、智学館の理念である人間の尊厳ということをもとに、サイエンスマインド・グローバルマインド・ソーシャルマインドの3つを使って、智学館中等教育学校を、「みんなちがって、みんないい」という学校にしてほしいと思えます。

## 「みんなちがって、みんないい」学校へ



智学館運営審議会委員

### 中川眞弥

慶應義塾名誉教諭。慶應義塾大学卒業（教育学）。元慶應義塾幼稚園舎長。主著「慶應義塾幼稚園舎」（堂原書房、1999）。



# 勉強ができることの 素晴らしさ



智学館運営審議会委員

**津田 葵**

常盤大学国際学部教授、英米語学科長。  
ジョージタウン大学大学院言語学科博士課程  
修了Ph.D 専門：社会言語学、社会言語科  
学会、Linguistic Society of America 会員。



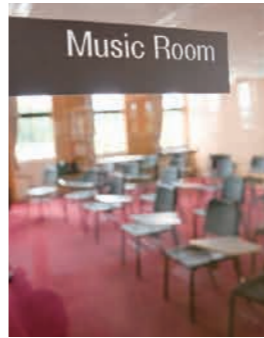
**私**は東京の吉祥寺から水戸への通勤途中に中央線の神田で乗り換えて、上野から水戸にやってきました。「神田」は、ご存じの通り駅の名前ですが、私はそこで降りる時に、心に浮かんでくる事があります。

30数年前、私は、会議のため中央アフリカのザイル、今はコンゴと呼ばれている国に30日くらい滞在しました。その気候は変わりやすく、特に朝夕は非常に暑かったりで、日中少し昼寝をするように勧められました。でも、私は土地の人々がどんな生活をしているのか知りたくて、昼寝の時間を利用して外に出て、周りを歩くことにしました。村のあちこちから現地語が聞こえてきたり、日中どしゃぶりの雨がさーっと止んで空に虹がかかって、周りの自然が美しく輝く、心が躍るような体験もしました。ある時、私の目の前に一人の少年が姿を現しました。よく聴いてみると、お父さんとお母さんが国の機関に勤めていて、そこにはテレビがあり日本の映画を見たことなどを伝えてくれました。「何か覚えている日本語はある？」と尋ねると、彼は「ごう」と言い、「他にはある？」と尋ねると「ごうも、ごうも」と言いました。毎日姿を現す彼に私が、「お元気？」と尋ねると、彼の答えは「ごうも」、「さよなら、またね」と言うので、手を振って「ごうも、ごうも」と答えが返ってきました。

それから毎日のように、お昼休みに彼と会い、ある時は、「今日は僕についてきてね」と言っていて彼の学校に連れて行ってくれました。またある日には、彼の家に行ったこともあります。雨や風がしのげる程度のパラック風の小屋で、室内には家具もありません。もちろん台所など何もありませんでした。その代わり、彼の兄弟姉妹が次々と顔を出して、私を大歓迎してくれました。そういう事がずっとあって、私がコンゴを去る日が近づいてきた時、彼との出会いを記念するようなものを渡したいと思うようになりました。それで靴の中をよく見たら、「英和・和英辞典」が底のほうから出てきました。国際会議の時に持ち歩いている辞書です。それを彼に手渡すと、次の日に彼はにっこり笑って、「僕の名前を日本語で書くので覚えておいて」と言っていて、裸足で土の上に「カンダ」とカタカナで書いてくれました。その辞書の後ろのページにカタカナについての記述があったので、それを勉強したのだと思います。そして私に「僕は将来、日本に行って勉強をしたい。病気で苦しんでいる人を助けたい。僕が大きくなって日本に行くまで生きていてね」と言ってくれました。「うん、カンダ君。日本に帰っても待っているよ」と言っていて別れました。

私はカンダ君の事を、帰国後も時々思い出して、「元気でいるかな」、「もう青年になったかな」とアフリカでの彼のとの出会いをふりかえっていました。彼に出会って6年目に、今度は英国で会議がありました。私は、日本についての本1冊、日本語の文法の本1冊、そして「折り紙」をカンダ君へのお土産として準備しました。会議中、コンゴからの参加者を見つけると、すぐに飛んで行って「カンダ君を知っていますか？お父さんとお母さんが国の機関で働いているあのカンダ君？」と尋ねました。すると、相手は頷いて「瞬間言葉を失ったようになり、「カンダ君は数年前、熱病になり、3か月ほど苦しんだ後、天国に召されたのです」と静かに悲しそうに伝えてくれたのです。私はすぐにその事が信じられませんでした。彼が元気であったなら、いまごろは日本に来て医学の勉強をして、お医者さんになって本國でたくさんのお病人を助けていたことでしょう。

毎朝、中央線で「次は神田、神田」のアナウンスを耳にすると、その時の出会いがよみがえってきます。私が出会ったカンダ君は、皆さんと同じくらいの11歳か12歳の少年でした。皆さん、このような素晴らしい智学館という学び舎で、勉強しようと思っても出来なかったカンダ君の分まで頑張るって、国と国とを結ぶ立派な国際人になってください。これが皆さんに捧げる私の祈りであり願いです。



**智**学館に今年入学された皆さんは音楽がお好きだと以前に聞きましたので、音楽に因んだ話をしたいと思います。水戸には素敵なコンサートホールがありますので、クラシック音楽の演奏会に行ったことがある方もいらっしゃると思いますが、ピアノコンサートという演奏の形態をご存じでしょうか。普通のオーケストラのコンサートは、オーケストラが舞台の全体にいて、そして指揮者が立っている、それだけなのですが、ピアノコンサートの場合は、真ん中にピアノが置かれて、そして指揮者が横にいます。普通のオーケストラの指揮者は指揮者で、ピアノコンサートはピアノリストがコンサートの主役なのです。ピアノの音とオーケストラの音が相まって、本当に華やかなとても良い演奏形態で、私は大好きです。2、3年前にとっても印象的なピアノコンサートは演奏会に行きました。ピアノリストも有名ではなく、オーケストラの人たちは、アマチュアですから、初めからそれ程上手ではないだろうと思っていました。椅子に座り音楽が始まる

のを聴いていると、驚くような事が起こったのです。私は最初、随分上手なピアノリストだと思い聴いていたのですが、上手というのは、テクニックばかりではなく、この場で番自分の良いものを出し、心をこめて演奏していることが、こちらにも伝わってきたのです。すると、オーケストラの人たちの演奏が次第に上手になっていき、何とも引き込まれるように、まるでソロのピアノリストがオーケストラの人たちを、引き上げてくるように、大変素晴らしい音になって、演奏者の表情も変わっていった。本当に感動的な演奏会となったのです。コンサートホールにいた人たちもみんな、私と同じ印象を持つたと思います。

このような経験は、皆さんの日常生活で、例えばクラスでグループワークをする時や、みんなで何か共同でする時に、一人の人やあるいは数名の人たちが、自分の持っているものの面白い所を出して一生懸命やってくれたら、何か他の人もつられるように一生懸命になつて、そして最後にすごく良いものが出来てきた。そういう経験はあるのではないかと思います。これはとても不思議なことだと思つたのです。このようなお話をするのも、私自身、子どもの頃にピアノが大好きで、ピアノリストになりたかったのです。その頃の夢はなんといつかピアノコンサート。コンサートホールの主役として後ろにオーケストラを控えて、真ん前でピアノを弾く。ピアノが好きなのは誰でも

夢をみるものです。どんなに素晴らしいことだろうと。そう思い夢に描いていきましたが、年齢が大きくなつても手が大きくならないという事がわかったので、ピアノリストになることを諦め、別な道に進みました。そして、大学に入り勉強をしましたが、私はその頃から、自分はコンサートホールの主役にはなれなかつたけれど、自分は自分の人生の主役なのだと思つたようになっています。自分の人生とは、生まれてから死ぬまで、自分が主役の舞台をやっているようなものだ、そう思つたようになりました。皆さんも考えてみてください。もしかすると、自分が主役だなんて思ったことはないかもしれませんが、家においても、学校にいても、自分は舞台の端っこに座っているような気がするかもしれない。しかし、どんな場面でも常に考えて行動している自分に気持ちを持ったとき、やはり自分の人生の主役は自分自身なのだ、ということに気がつくでしょう。もちろん自分一人が主役ではなく、一人ひとりのみんなが、主役の人生を歩んでいて、舞台を演じているのだとは思えないでしょう。そしてその主役の人生を一生懸命、一番いいものを演じていく。それは、それを見てくれた他の人たちの心に深い印象を残し、記憶され、言葉に書いて残されるかもしれない。何らかの形で他の人の記憶に残り、次の人が主役の舞台へと受け継がれていく。それがずっと続いていくことが、人間の歴史なのだろうと、私は思います。

# みんなが主役の人生を



智学館運営審議会委員

**諸澤 篤子**

学校法人常盤大学評議員。上智大学大学院外国語学  
研究科言語学専攻後期博士課程単位取得退学。元  
上智大学非常勤講師、元常盤学園短期大学講師、元  
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院講師。



## 臨床心理士を目指す方に、 うれしいお知らせです。

来年度より「臨床心理士第1種指定大学院」の指定が決まった、大学院人間科学研究科修士課程 心理学領域。

臨床心理士とは、病院や学校などで心理的な問題を扱う「心の専門家」のこと。第1種指定によって、大学院修了後に、この臨床心理士の資格認定試験を受けられることとなります。

本指定取得のために尽力された人間科学研究科中里弘教授にお話を伺いました。

### 臨床心理への取り組み

常磐大学には、関連学部内だけで



心理臨床センター  
落ち着いた相談室で心の悩みを話しあいます

も現在計5名の有資格教員がおり、学生は教員とともに、学内の実習施設・心理臨床センターで年150人へのぼる外来患者さんの診療に参加します。さらに、学外でもさまざまな現場に出張して学生が心の支援にあたる体制も整っています。このような社会的功労や地域への貢献が認められての今回の第1種指定だと考えています。

これまで常磐大学が受けていた第2種指定では、臨床心理士資格試験を受験するのに修了後1年以上の心理臨床経験が必要でしたが、資格を持たずに就職するのはかなり困難な事です。今回の指定で、臨床心理士を目指す学生により有利になったと言えます。

### 高まる専門家のニーズ

元々臨床心理士といえば精神医療が主流でしたが、現在その仕事は多岐に渡ります。喘息やアトピーを抱える小児患者の心性原因を取り除く医療分野、犯罪を犯した人の矯正を助ける司法分野、また、福祉分野における児童や老人、子育て、不妊、犯



遊びを通して子どもを治療するプレイセラピー室

する治療者はその気持ちを理解する必要があるので、あまりに同情してしまったりは感情が治療者に転移してしまいます。また、優しくするだけでは、患者さんが自身で人生を切り開くことをやめてしまいます。離れていては理解できませんし、近づきすぎてはいけない。ここで大切なのは、患者さんと治療者の距離感なのです。これは授業の中でも大切にしており、学生には患者側の体験や、実習でリアリティをつかんでもらっています。

### 常磐大学の取り組み

常磐大学では心の問題とその解決方法に関する情報交換や知識の普及を行っています。他大学の学生も参加できる年2回のセミナーや、提携する各市への専門家の派遣、茨城大学大学院との共同授業などを実施。子育ての形が変化してきた現代で、今後も臨床心理士の意義は高まっていくと思われま。



中里 弘 教授  
日本大学文理学部卒。専門は臨床心理学、心理療法学。特に登校拒否をテーマに研究。

## 留学生との交流

「カナダハリ・エインリー高校」

2008年3月27日の木曜日、カナダアルバータ州エドモントンから23名の留学生が水戸にやってきました。2年前の2006年、本校生徒8名が3ヶ月間の短期語学留学を経験したハリ・エインリー高校(Harry Ainley High School)の生徒たちです。彼らは全員日本語の授業を履修していて、授業担当者であるダニエル・イトウ先生(Mr. Daniel Ito)とシェリー・リン先生(Mrs. Sherry Lin)が引率でした。留学生たちは3月の末から4月初めにかけてイースター休暇を利用して10日間ほど日本に滞在。東京観光、常磐大学高校生宅へのホームステイ、奈良・京都観光、そして広島でのホームステイと忙しい日程をこなしました。

我々国際教育プロジェクトのメンバーは昨年夏から準備を開始し、今年1月にはホストファミリーを募り、水戸での4日間の日程を計画しました。ハリ・高校留学経験者も含め17名の生徒とその家族、そして常磐大学職員2名と国際被書者学研究所の紹介で3名の方々が留学生を自宅に泊め、休日と共に過

慣れない正座での  
茶道体験



ごしてくれました。

27日午後、総勢60名以上が出迎える中、留学生たちが同窓会館に到着しました。国際交流語学学習センター長の依田先生も交えて歓迎式が行われ、夕方にはカタコトの日本語と英語(英単語)が飛び交う中、重い荷物を抱えながら「我が家」へと帰っていきました。翌28日は、高校の施設を利用し日本文化を体験。茶道部員の見事なお手前を熱心に観察し、「しびれ」と闘った末にやっと味わった抹茶は、いかげつだったでしょうか。また美術室では張子のだるまに思い思いに色付けをし、熱中するあまり言葉や忘れそうになりながらもできばえに満足し共感し合う姿がこちらに見られました。書道室では好きな文字や言葉を漢字に表し、メタリックのカラフルな墨でうちわに筆を走らせました。あっという間に午前中の体験が終了し、「日本のお母さん」が作ってくれた昼

食をとり、午後は水戸市内観光へ。偕楽園の梅を堪能し、好文亭から見渡す千波湖周辺の風景はお気に入りの一つになったに違いありません。シャトルバスでの移動は快適で、水戸の町並みも興味深く眺めていました。最後に弘道館を見学し市内観光は終了。迎えに来ていたホストペアレントを安堵の表情で見つめていた留学生の姿が印象的でした。29日土曜日は、大洗水族館や笠間の陶芸体験、五浦の天心美術館見学など県内各地を歩いたり、また日光や東京・銀座方面へと出かけた家族もあったようです。

いよいよ水戸を離れる日が来てしまいました。たった数日の滞在でしたが、互いに打ち解け合い本当の家族のようになっていました。無事帰国した生徒たちの様子を見て、ハリ・高校国際言語科主任のフェドロ・美恵子先生は「今まで日本への旅行を10回経験したが、今回が最高のものとなった」と我々に感謝の意を表してくれました。23名の留学生たちは、我々に貴重な体験を与えてくれました。年度末過密スケジュールが続く中で、ホストファミリーの方々の協力を得て無事に受け入れが済んだことは喜ばしいことです。本校の生徒たちもよい刺激を受け、ますます英語学習に力を入

偕楽園での記念写真



れてくれると思います。2008年度は7名の生徒がハリ・高校へ留学する予定です。その中の3名は今回の受け入れを経験しています。今後ハリ・エインリーと常磐の交流がよい形で続いていくことを切に願っています。

ハリ・エインリー高校の生徒からは帰国後、水戸滞在中の生活を振り返る手紙が届き、そこには「書道は注意深く行う必要がある」と以外は絵筆を使うのと似ていたけれど、鉛筆で書くことは全く違っていた」などの感想が綴られていました。



「今しかできないことを」

私は入学してすぐ、吹奏楽団に入団しました。あっという間に年が変わり、吹奏楽一色の1年間をすごしていました。吹奏楽をやっているおかげで学科を超えて仲間が増え、毎日楽しかったのですが、秋セメスターが終了した時、4年間吹奏楽だけなのはもったいない、と感じ、せっかく大学生になったのだから、学生のときにしかできないことを何か1つでもやってみよう、と思いました。

ハンググライダーで空を飛んでみようか。バックパック背負って旅をしてみようか。富士登山に挑戦しようか、などいろいろ考えました。その結果、スキューバダイビングのライセンスを取得することにしました。昔から泳ぐことが好きで、海中の生物やその景色に興味を持っていたので、ちょうどいい機会だと思い行動を起こしました。

3月、まだ海は寒い。しかし、やると決めたからには夏までは待てない。3月でも海に入っても平気な場所を求めて、私は沖縄にたどり着きました。初めての沖縄。初めての長期一人旅。飛行機に乗る前から私の意識は沖縄へ飛んでいました。

初めて海中で息をしたときの感動は、きっと一生

忘れないと思います。目の前には青い世界が広がり、聞こえる音は自分の呼吸する音だけ。すぐ目の前を小さな魚が通り過ぎ、体は上下に浮いたり沈んだり。言葉では言い尽くせない衝撃でした。もし、少しでも興味をお持ちの方がいれば、ぜひ一度体験してみようとお勧めします。危険なこともあります、きちんと手順を踏み、ダイビングのルールやインストラクターの指示に従って無理なく行えば、危険度はぐっと減ります。

学生でなくてもできた経験かもしれません。しかし、今だからこそできたことだと思っています。自分の小さな世界から一歩外に出ることで、視野が広がり以前より少しでも柔軟な考え方ができるようになり、自分自身の可能性が広がればよいと思います。

常磐大学  
人間科学部  
現代社会学科 4年  
杉原 愛



「就職活動で学んだもの」

私は、常磐短期大学に入学して2年目を過ごしています。

光陰矢の如し、という言葉もあるように時の経つのは早いもので、来年はもう卒業ですが、この1年で私は、多くのことを学びました。

とりわけ大変だったのは、就職活動です。短大は2年間しかありませんので、入学したらすぐに就職について考えなければならぬといっても過言ではありません。

就職活動はまったくの初体験です、私は何をしたらいいのか分からず焦っていましたが、何もしないよりは行動してみようと思い、まずは、学内就職バスツアー(昨年9月)に参加申込をしました。それが私の就職活動の始まりだったと思います。

そのバスツアーをきっかけに、自分のやりたい仕事、合っている仕事を真剣に考えるようになり、就職サイトも毎日、目を通すようになりました。

今年2月には、狙いを定めた企業にエントリーをし、3月には説明会に参加しました。4月には試験を受け、何社か落ちたりもしましたが、運よく希望していた会社に受かり、内定をいただきました。こんなに早く志望企業に受かるとは思っていませんでした

ので、いまだに信じられない気持ちで一杯です。

就職活動を通し学んだことは、自分自身を見つめなおして冷静に自己分析すること、友達をはじめとする身近な人の大切さです。

自己分析のおかげで、自分のことを良く知ることができましたし、また、周りの人の協力や助けがいかに大切かを痛感しました。

私は幸運にも就職活動を早々に終わることができましたが、来年3月までは、まだ学生ですので、残りの時間を有意義に過ごそうと思っています。残りの学生生活を悔いの残らないように過ごすこと、就職先の企業について勉強することが目標です。

私は残り少ない学生生活を満喫し、来年4月からは、立派な社会人になれるようがんばっていきたいと思います。

常磐短期大学  
キャリア教育学科 2年  
雲藤 ゆかり



TOKIWA NEWS  
幼稚園

ヒルシユグラーベン幼稚園を訪ねて  
Städtische Kindertagesstätte Hirschgraben

2008年5月6日午後3時から4時半まで、ドイツのヘッセン州ヴィースバーデン近郊タウヌスシュタイン市にある、公立で自由保育のヒルシユグラーベン幼稚園を訪ねました。園長先生にお話を伺った中で一番印象に残った言葉は、「子供たちは幼稚園での自由な活動の中で社会生活におけるすべての事を学ぶ」と言っていたことです。勿論、トラブルもあったり、喧嘩もあったりすることも日常茶飯事です。その中からすべての事を学ぶということですね。保護者の中には、いろいろな事を教え込むことを良しとする考えの方もおいでになるが、そういう方には、そういう幼稚園もあるので、そこに行かれることを勧めていますということでした。

園舎の中に入りますまず目を引いたのは、鮮やかな色使いの備品です。保育室はまるで小さな家の中、ソファがあり、天井からは天井のよう薄い布が下げられていました。その布は、園舎内の他の場所にも下げられていました。保育室にはピアノは無く、ギター(ガット

ギター)が一台壁に下げられていました。案内してくれた園長先生自身も含め、この頃はピアノを弾けない先生も多く、でもギターと一緒に十指奏し歌を歌う、とのことでした。ピアノは後述の運動遊びの部屋に唯一置いてあるだけで、それも外部のピアノ教師がレッスンの為に使うとのことでした。

園庭では子供たちが元気に遊んでいて、どの子の姿もとても生き生きと目に映り、目がキラキラと輝いていました。木製の小さな小屋の屋根に乗って遊んでいる子がいても禁止するのではなく教師は近くにいてそれとなく見守っている様子でした。勿論何かあれば手を出せる位置にそれとなく待機していました。それとなくというのが大事なのです。全般的に見て教師は見守って一緒に遊んでいる様子は殆ど見られず、墨子に徹しているといった様子でした。滑り台は、ステンレス製で横に2、3人並んで滑れる位の幅で、園庭の傾斜部分を利用して設置されていました。中でも特に日本の遊具との違いを感じたのは、ブランコでした。上から見る

と6角形になっており一度に6人が乗れるもので、着座部分の前に落下防止の為にスチールが付いており着座位置もかなり高いものでした。鎖部分も2本が平行についておらず上にいくにしたがって広がってしまっていました。他にハンモックやサッカーゴール、クモの巣のような遊具などなどたくさん遊具がありました。象徴的だったのは、園庭中に芝生が敷き詰められていて、高低差をうまく利用し園庭整備がされ、遊具が配置されていたことです。

再び園舎の中に入り、保育室を見学しました。保育室の入り口には、保育中の様子を写した写真が掲示されていました。評価の一部ですね。通常の保育室には、たくさん遊具が置いてあり、いつでも子供が遊べる環境が整えられていました。しかし、何も玩具(遊具)のない保育室があり、そこには、天井から布が波型に下げられていて、鏡(様々な形)が多く設置されていました。下の階の保育室には、興奮して落ち着かなくなったり、眠くなったりした子のためにちょっと薄暗い落ち着いた部屋が用意されていました。ベッドも置かれ、テレビも置かれていました。他の国から来た移民の子供たちが、テレビでドイツ語を学べるようにとの配慮がそこにはありました。

また、工作室があり、外部から美術の先生がいらしたときだけに使うそうです。子供用のこぎりや金槌などの工具や素材(木材、石、豆)がたくさん用意されていました。運動遊びの部屋には、よく木、滑り台、フープ、マット、ボール、パンチングボール、縄梯子、踏み台(スタックできるもの)、ボールプール用のボールがたくさん入った大きなバケツ(直径1.2メートル位、高さ1.5メートル位のポリバケツ)などがきちんと整理され置いてあります。

遊具、建物、教師、体制等々、日本の幼児教育との違いをひしひしと感じた一日でした。今回の視察を今後の常磐大学幼稚園の運営に活かしていきたいと考えております。(園長 榎本 正明)



Kindertagesstätteはドイツ連邦と州レベルの法律により教育機関と認定された幼稚園である。



## 常磐大学高等学校 男子バスケットボール部

今回は、常磐大学高等学校の男子バスケットボール部をレポート。  
今春関東大会県予選で準優勝を飾り、勢いをつけています。  
キャプテン・花島基行さん、監督・川崎秀典先生に  
お話を伺うことができました。

### バスケット部40人の仲間

まず、キャプテンにチームの特徴を聞くことと「さま」とにかく仲がいいこととです」との答えが。「部活のメンバーは全員で40人。ここまでの多いのも珍しいと思います。全員仲がいい。みんなミニバスから始めてこれまでもバスケットをやってきた者同士、意見が合いますね。もちろん、考え方がぶつかることもあります。話し合います。遠慮したり、恥ずかしがりたりせず、言いたい事が言える。家族に近いものがあると思います」

また、「今年はメンバーの身長が低いんです」という。バスケットでは、対戦相手との身長差はハンデになつてしまいがちです。「だから、スピードがなければならぬといけません。リバウンドを取ったら速攻、

の素早いスタイルで、とにかく走って、身長をカバーすることを目指しています」

彼の言葉通り、アリーナではクイックパスやゴール下の動きを強化する練習が次々と繰り広げられます。

現在、茨城県の高校男子バスケットは、まさに群雄割拠の状態。ともに全国大会出場経験をもつ取手松陽高校、土浦日本大学高校、そして着実に力を伸ばしている常磐大学高校と、大会の度に上位が争われ、その勢力図が書き換えられます。

お話を伺ったのはインターハイ県予選を控えた6月初旬。「前回の大会では、取手松陽高校に負けての準優勝でした。今の目標はとにかくライバル取手松陽高校に勝つことと」次に向けた想いを話してくれました。

### 急成長、その理由とは

そんなキャプテンが「いつも意味があつて叱つてもらうから、怖くはない」と信頼を寄せる川崎監督。2000年度に共学になったばかりの常磐大学高校で、まだ歴史の浅い男子バスケットを作り上げた立役者です。監督は「初めは選手も集まらず、トレーニング用品も手作りで大変でしたが、まず何より学校生活をきちんと過すことを基本に考え、周囲の理解を得てきました。部の設立から9年が経ち、今では「バスケットボールなら常磐」と地域に認められるまでになっています」と話します。「今のメンバーは中学からのスター選手がい

る訳ではないのに、予想外のがんばりを見せています。昨年からベスト4に入り始め、夏、秋と準優勝。今年の春も県予選で準優勝し関東大会に出場しました。だんだん「準優勝」に慣れてしまつてきているので、この辺でもう一歩がんばりたい。試合前でも特別なことはせず、体の大きな選手を相手にするための筋トレ、体力作りをしっかりやる。大会に向けて日々鍛錬あるのみです」

インタビュウから見えてきたのは、何事にも基礎を大切にすることとチームワークの良さ。派手なスターはいなくても、毎日地道に鍛え抜かれた常磐の精鋭が、全国大会のコートに出る日も近いかもしれせん。



ゴール付近で競り合う練習。目で追えないほどのスピード感。



### キャプテンとして大切にしているのは？

チームのまとまりです。練習への集中力が高まるので声を出すことも大事です。あいさつなど礼儀にも気をつけます。

キャプテン 3年  
花島基行さん



### バスケットボールの魅力は？

戦略次第で強いチームにも勝つことができる。バスケットはいろいろな戦略があるのが武器になるんです。

川崎秀典 監督

### 常磐大学高等学校 バスケットボール部選手心得

- 一、毎日の積み重ねなくして勝利なし。調子がいい時だけ張り切つてやるのは誰にだってできる。
- 二、素質は磨かなければただの石ころだ。それは、君の将来に期待しているのであって、残してきたものに敬服しているんじゃないよ。
- 三、「もうダメだ」と思ったときのひとふんばりが勝利を生む。
- 四、こちがダメだと思つてるときは、相手もきつとそう思つている。
- 五、それを顔に出した方が負け。
- 六、素質があれば、みんながやばい。
- 七、それは、君の将来に期待しているのであって、残してきたものに敬服しているんじゃないよ。
- 八、「もうダメだ」と思ったときのひとふんばりが勝利を生む。
- 九、こちがダメだと思つてるときは、相手もきつとそう思つている。
- 十、それを顔に出した方が負け。

※印象に残る3項目のみ抜粋しました。